

アメリカの宗教に基づいた行事から考える日本人の宗教への価値観
～なぜ日本人は宗教に関心があまり無いのか？～

3年2組39番 加藤帆夏

Keyword: 「宗教」「留学」「仏教」「キリスト教」「アメリカ」

1. はじめに

私は高校二年生の夏からアメリカに約1年間留学をした。現地では、感謝祭(Thanks giving)やクリスマスなど、宗教に基づいた行事をホストファミリーや現地の友達と一緒に経験した。どの行事でも、家族や友人が集まり、盛大に行事を楽しむという姿が印象に残った。実際に経験をして、アメリカでは宗教が人々の生活に自然と根付いていることを感じた。一方で日本ではクリスマスやハロウィンなどの行事を楽しむことはあっても、宗教的な意味を意識する人は少ないと考える。私はこの経験を通して、日本では宗教が日常の一部として認識されにくい、また宗教に対して距離を置く文化が根強いのではないかと感じた。そんな日本の現状で宗教に基づいた行事を通して、宗教は日本人が考えているほど堅苦しいものではなく、宗教に対しての印象を少しでも柔らかく考えて欲しいと思ったのが主な動機だ。また宗教は文化や価値観の理解を深める手がかりでもあり、日本人の宗教への価値観を改めて考えてみる必要があると思い、このテーマを選んだ。

2. 序論

このテーマの目的は、「なぜ日本人は宗教に関心があまり無いのか」を明らかにすることである。アメリカの宗教に基づいた行事を通して考えられるアメリカ人と日本人の宗教への考え方や価値観の違いに注目する。また、宗教に対して日本人がどんなイメージを抱いているのか、そして宗教をもっと身近なものとして考えるためには何が必要なのかを考察する。

まず、日本の宗教とアメリカの宗教は「全く違う」というのがオーソドックスな考え方であるが、実はそうでもないと述べられている。「Do you believe in God?」という英文を和訳し「神様を信じますか」と聞いたとする。そして、アメリカ人も日本人もどちらも90%だから、日本人とアメリカ人は同じような信仰心があるとは考えにくい。信じている対象が異なり、「神」の意味も違うからである。アメリカ人でも、人によっては「神を信じること」と「教会に行くこと」は異なる。しかし、一般的なアメリカ人は自ら日曜日に教会に行き礼拝に出席する人もいるが、日曜日以外は宗教とは関係のない生活をしている。つまり、私たち日本人と似たように日常生活においては、神の存在に影響されているとはあまり感じられない。

一方、日本人は宗教を日常的に強くは信仰していない。そのため、「宗教を信じるか」という問いに対する答えとして日本人の多くは宗教を「信じていない」または、「無宗教」だと答え、信仰や信仰心を持っていない割合が70%を超える。しかしながら、一年の初めである正月には神社・寺院に初詣として参拝し、お宮参りや葬式、またクリスマスなど個人や家族を問わず各々がそれぞれの目的を持って参拝している。日本人にとってこれらの行為は宗教的な行為ではなく習慣であるという認識をしているから、日本人は自らのことを無宗教だと考えるのではないのだろうか。こうした研究から、日本人は宗教に関心が無いのではなく、関わるきっかけが少なく、宗教を特別な存在として捉えている状況にあることがわかる。

3. 本論

まず、国際中学生・高校生が宗教にどんな印象を抱いているのか知るためにアンケートを行った。質問は「宗教に対してどんなイメージを持っていますか」と質問をしたところ、「宗教は洗脳のような印象がある」「身近ではないが、海外では身近そう」「海外では心の支えとして存在している」などの回答を得た。また、「海外の宗教行事に参加して見たいですか」「宗教を通してその国の文化を理解することに意味があると思いますか」と聞いたところ、「参加してみたい」と答えた人は90.1%、「宗教を通して文化を理解することに意味がある」と答えた人は100%だった。これらの結果から、日本では宗教に対して少しネガティブなイメージを持つ人が多く、距離が起きがちな現状ではあるが、興味がないわけではなく、知る機会があれば学びたいと考える人が多いことがわかった。

そこで私は、実際にアメリカで遊んだゲームを通して、各行事の宗教との関わりやアメリカと日本での信仰心の違いについて理解してもらうため、ポスター(図1)を作成し校内で案内を呼びかけた。その後、希望者を対象に私が実際にアメリカで体験した行事の内容や、その宗教的背景などに関するプレゼンテーションを実施した。



【図1】

また、ゲーム体験では、実際にアメリカで楽しまれている遊びを取り入れ、宗教行事を「堅苦しいもの」ではなく「楽しみながら人とつながる文化」として感じてもらうことを目的とした。ゲームの一つは、トイレットペーパーの上に置いた水の入ったカップをこぼさないように巻き取り、早く自分の手元に引き寄せたほうが勝ちというゲームである。(図2)もう一つは、「head」「shoulder」「knees」と私が言った部位を触り、「cup」と言われた瞬間にカップをとった方が勝ちという反射的ゲームである。(図3)どちらのゲームも、参加者は宗教に基づいた行事のゲームを通して、堅苦しさを感ずることなく楽しむことができた。



【図2】

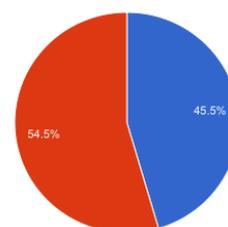
このように、宗教行事を体験の中で楽しむことで、宗教が日常の中で自然に存在しており、人々をつなぐ大切な文化だと認識してもらうことができた。活動後に行ったアンケートでは、「アメリカの宗教行事についてのイメージは変わりましたか?」という質問に対して、45.5%が「とても変わった」、54.5%が「まあ変わった」と回答した。また、「宗教や宗教行事にもっと興味を持ちましたか?」では54.5%が「少し興味が沸いた」45.5%が「とても興味が湧いた」と回答し、参加者全員が体験を通して宗教に対するイメージの変化や関心を持ったとわかる。さらに、「ゲームを通して宗教行事や文化について理解できましたか?」という質問でも、63.6%が「とてもできた」、36.4%が「まあまあできた」と回答し、体験を通して理解が深まったことが明らかになった。アンケートとプレゼン・ゲーム体験などから、宗教を“学ぶ”だけでなく“体験”することで、宗教に対する考え方や感じ方が大きく変化することが明らかになった。特に、「宗教＝堅苦しいもの、洗脳されそうなもの」というイメージが、「宗教＝人々をつなげる大切なもの」へと変わっていったのではないかと考える。



【図3】

アメリカの宗教行事について印象は変わりましたか?

● とても変わった
● まあ変わった



4. 結論

アメリカの宗教に基づいた行事を通して日本人の宗教への考え方や価値観を考察した。アンケートやプレゼン・ゲーム体験などの活動の結果から、日本人は宗教に対して距離を置く傾向はあるものの、実際に学んだり体験したりすることで、宗教をより良いイメージに変えることができるようになった。つまり、「日本人は宗教に関心がない」というより、「関わるきっかけが少ない」ことが大きな原因だと考えられる。体験や経験を通して宗教のイメージが変わることは、異文化理解を深めるにあたって、とても大切だと感じた。

今後の課題としては、私自身が宗教について知る機会をさらに積極的に作ることを考えている。例えば、海外の方や日本に来た留学生にその国の宗教行事について聞いてみたりすることから始めていきたい。また、今回のプレゼンやゲーム体験は希望者のみの参加であったため、宗教に対するイメージを変えられたのは限られた人数だった。今後は、さらに多くの人に宗教へのイメージを和らげてもらうために、発表の機会を広げていけるよう工夫したい。

5. おわりに

アメリカで宗教に基づいた行事を体験し、探究を通じたことで「宗教＝特別で堅苦しいもの」という印象から、今では「宗教＝人々をつなげることができる大切なもの」だと考えるようになった。宗教に対する日本人の偏見を少しでも柔らかくし、異文化理解をさらに深めることは、私たちがグローバルな人材として活躍していくうえでとても重要だと感じた。これからは、宗教をはじめ、多様な国や地域、文化の価値観を知る努力を続け、異文化を理解し合える人でありたいと思う。

6. 参考文献・出典

東海林 克也「日本における慣習的信仰の基礎的研究」2016年

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/record/14737/files/AA11837343_15_05.pdf

閲覧日 2025年11月

Kwansei Gakuen University COE 特別研究会「欧米から見た日本の宗教」研究論文 2006年10月

<https://files.core.ac.uk/download/pdf/143632747.pdf>

閲覧日 2025年10月

和田 素「日本人の持つ宗教観—日本人は「無宗教」なのか—」2015年

<http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/student/pdf/i12/120314.pdf>

閲覧日 2025年11月